

長い歴史を誇る祭りを受け継ぎ、
誇りと価値を高め、
次世代へ渡そうと奮闘する
西方地区の人々の取り組みをご紹介します！

西方水かけまつりを 未来へつなぐ

💧 元日の奇祭を真夏に再現
キーワードは「子どもたちのために」

毎年1月1日に西方地区で開催される奇祭「西方水かけまつり」。上半身裸に地下足袋、頭に豆絞りの手ぬぐいをかぶった地区の男性が井戸水や田んぼに張った水をかけあう奇祭です。ニュースやトピックとしてテレビで取り上げられることも多く、正月の三春を代表する風物詩となっています。

近年、全国各地の伝統ある祭りの多くが後継者不足に頭を悩ませています。西方水かけまつりも例外ではありません。水かけまつりを運営する西方地区若連会では、メンバー同士で互いに意見を出し合いながら、500年以上ともいわれる祭りの伝統を次世代に受け継ぐための試みを続けています。その取り組みの一つとして2024年に始まったのが、子どもを対象とした「ちびっ子水かけまつり」です。極寒の正月に開催される本来の水かけまつりとは違い、夏真っ盛りの8月に開催されます。

「西方水かけまつり」の伝統を受け継ぎ、未来へつなぐ取り組みについてご紹介します。

